

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2018. 2  
No.294

### 犬に関する「ことわざ」

今年2018年は戌(犬)年です。これにちなんで、「犬」が登場することわざを調べてみました。紹介します。

#### ①犬に論語(いぬにろんご)

ありがたみの分らないこと。わけの分らないものに、どんな良い教え、立派な道を説いてもいつこうに感じないこと。

②犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ(いぬはみっかかえばさんねんおんをわすれぬ)

犬は三日飼っただけでも、三年間その恩を忘れない。まして人は恩知らずであつてはいけない、という意味。

③犬も朋輩鷹も朋輩(いぬもほうばいたかもほうばい)

同じ主人に仕える以上、身分に違いはあつても、仲良くしていく義務があるということ。会社の同僚などについていう語。

④夫婦喧嘩は犬も食わぬ(ふうふげんかはいぬもくわぬ)

夫婦喧嘩は、内輪のつまらない争いで、すぐ仲直りするものだから、他人がなまじ気を使つて仲裁などをするほどのことではない。何でもよく食う犬でさえ、見向きもしないのだから放つておくほうがよい、という意味。

⑤食うだけなら犬でも食らう(くうだけならいぬでもくう)

ただ食つて生きていけるというだけなら、それでは人間としての価値がない。

“犬”でことわざを検索したのですが、まだまだたくさんありました。“犬様”から学ぶことがこんなに多くあることに気づきました。皆さんも参考にしてください。

### 「第四次産業革命」真つ只中

新春のトップ訓示に関する記事を多く目にしました。その中に、「今現在は、人類が“火”を発明、発見した時と同じくらいの革命が起きている」という話を見つけて、ハツとしました。

だから今年は「その事実を真摯に受け止め、頭脳を柔軟にし、『今何を考えねばならないか』、『今後どうしていかなくてはいけないのか』というプランを立てる」ということなのです。

近い将来、具体的には何が起るのか。日本経済新聞に「進化するモビリティ」という特集記事があり、第四次生産革命の一部がわかりやすく載っていました。これによると、2030年までに次のようなことが起るといわれています。

2019年

・中国、EV生産を義務化

2020年

・小さく折り畳める自転車を使ったシェアサービスを開発

- ・駐車場や交差点に駐車している間に電動  
車輦を充電可能に
- ・バスが自動運転化
- ・車と飛行機を融合した、空飛ぶ車が発売  
2021年
- ・運転手なしで移動
- ・ハンドルやアクセルがない完全自動運転車が  
配車サービスで導入
- ・真空に近い筒を超高速で走る「ハイパー  
プ」が実用化。時速1200キロで走行  
2022年
- ・都市間をロケットで移動。ニューヨークと上  
海の間を39分で結ぶ  
2023年
- ・宇宙旅行が実用化へ

- 2024年
- ・1万1000メートルの深海に人が乗って潜  
れる潜水船を開発
- 2025年
- ・高速道路を走りながら電動車両を充電で  
きる技術を開発
- ・鳥の翼のように形を自由に変わって省エネで  
移動できる飛行機を開発
- 2027年
- ・東京・品川―名古屋間でリニア中央新幹線  
開通。40分で移動できるように
- 2030年
- ・化石燃料を使わない飛行機と船が実用化

五六

世人只緣認得我字太真故、多種嗜好、種種煩惱。前人云、不復知有我、安知物爲貴。又云、知身不是我、煩惱更何侵。眞破的之言也。

世間の人々は、ただもう「我」という一字を、あまりにも眞実なものと考えすぎている。それで、いろいろな好みや煩惱が多くなってくる。古人も言っているが、「我のあることもまた知っていない」と、どうして、(その我に対してある)物の貴いことを知ることができようか」と。また言うに、「わが肉身は(仮身であるから)、我ではないことを知っておれば、煩惱などどうして我を悩ますことがあろうか」と。これらは眞理を看破した名言である。(我にして我にあらずの眞理を看破している)。

(日本経済新聞 2017年11月20日付  
ニッポンの革新力「進化するモビリティ」イ  
ノベーションロードマップ2030より一部抜粋)

等々、いろいろな事が起こってくることは間違  
いありません。すべてが全地球に影響を及ぼす  
ということではありませんが、世の中はこのよう  
な方向に進み、その道筋は見えています。だか  
ら、頭脳を柔軟にして、この「第四次産業革命」  
に乗り遅れないことです。

